

東京電力福島第一原子力発電所廃炉対策推進会議（第1回）議事要旨

1. 日時 平成25年3月7日（木）17:00～17:45
2. 場所 本館17階第1共用会議室
3. 出席者

議長	茂木	敏充	経済産業大臣
副議長	赤羽	一嘉	経済産業副大臣
委員	福井	照	文部科学副大臣
	廣瀬	直巳	東京電力(株)代表執行役社長
	鈴木	篤之	(独)日本原子力研究開発機構(JAEA)理事長
	佐々木	則夫	(株)東芝代表執行役社長
	中西	宏明	(株)日立製作所代表執行役・執行役社長
事務局長	中西	宏典	経済産業省大臣官房審議官（エネルギー・技術担当）
オブザーバー	金城	慎司	原子力規制委員会原子力規制庁 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室長
4. 議題
 - (1) 会議の運営
 - (2) 中長期ロードマップに基づく取組の現状と課題
 - (3) 研究開発に関する取組の強化
5. 議事概要
 - 赤羽副議長より開催挨拶 ※茂木議長は、国会対応のため遅れての参加
 - ・茂木大臣が到着するまでの間、議長代理を務める。
 - ・未曾有の大災害発生直後から、危機的な局面が続く中で、現場の皆様の命がけの戦いがあつたればこそ、今、こうして本会議の開催に至ったこと心から感謝。
 - ・他方、現場は線量も高く、労働環境も厳しい中、技術的にも困難な難事業に立ち向かわねばならないと、改めて国も前面に出て、責任を共有し、研究開発等々にもしっかりと取り組んでいきたいと決意しているところ。
 - ・加えて今、経産省、省員挙げて、現地に張りつき、被災地の皆さんと接する中で、まだ被災者の皆様には、この廃炉作業は本当に安定して、無事故でなし遂げられるのか、放射性物質の敷地外への影響がいかばかりあるのかといった不安を抱えられた方が多いことも事実。
 - ・そうした皆様に、十分なお理解をいただけるよう、我々もリスクコミュニケーションをしっかりと丁寧に図っていかねばいけない。人類史上初めての挑戦とも言うべきこの戦いに、しっかりと前線に立って頑張るという決意で望む覚悟。
 - ・今日お集まりの委員の皆様にも、忌憚のないご意見賜りたい。
 - 事務局（中西事務局長）より資料1-1及び1-2について説明。会議の進め方について合意
 - 廣瀬委員より資料2-1及び2-2に基づき現状を報告。
 - 茂木議長到着、挨拶
 - ・福島復興を進める上でも、廃炉に向けた取組みを加速していかねばならない。16日に、私が現地を訪問したその日のうちに、1号機から4号機、それぞれの状況に合った形で、もう一度中長期のロードマップを見直して、加速・前倒しを検討するよう事務方にも指示を出した。
 - ・特に研究開発をはじめ、国が前面に出て取り組んでいきたい。今後、研究施設の整備を急いでいく。
 - ・モックアップ施設の立地も含め、検討を進めていかねばならない。この会議を司令塔にして、今後、さまざまな対応・検討をしていく。
 - 事務局（中西事務局長）より資料2-3に基づき説明。

○事務局（中西事務局長）より資料3-1及び3-2に基づき説明。

○廣瀬委員より、資料3-3に基づき説明

○プレス退席

○赤羽副議長

- ・3点申し上げる。1点目は研究拠点施設について、先に提示された6つの技術的要件踏まえて、原子力機構には、モックアップ施設の立地候補地について、可能な限り早期に検討を行い、最終調査結果の報告をお願いしたい。
- ・2点目は、研究開発運営組織について、設立準備チームの発足を歓迎する。官民一体で、最善の体制を構築していただきたい。
- ・3点目は、ロードマップの見直し作業について、技術的に不明なままに、廃炉の加速を求める政治の世界も改めなければいけないが、現場の声と、地元地域、また被災自治体の皆さんの声に真摯に耳を傾けていただきたい。

○福井委員

- ・技術的に非常に困難な課題に対応していく必要があり、これまで以上に関係者・関係機関の強化・連携が必要になると認識をしている。日本原子力研究開発機構の知見の蓄積や人材を生かしていく必要がある。
- ・中長期的な観点から、廃炉に貢献する基礎・基盤的な研究開発と、大学等における人材育成の2つにしっかりとこれからも取り組むことを誓う。
- ・特に、廃炉に関して、原子力の専門家を逐次投入せねばならないので、文科省として、この人材育成に特に力を入れたい。

○鈴木委員

- ・機構が中心になって取り組むようにというご指示、大変重く受けとめている。
- ・何としてもやり遂げたい覚悟であるが、この新しい施設を福島県に設置し、それを運営するには、私どもだけでは、難しい点もあるかと思うので、政府機関及び産業界にも、力添えいただきたい。

○佐々木委員

- ・廃炉に向けては、福島を再開発の起点になる非常に重要であり、迅速に実施していくことが、非常に大切。
- ・研究開発運営組織設立準備チームにおいては、実際の国内外に対する開かれ方についても、あわせてご検討いただきたい。また、政府間で確実に手を打った上で、具体的な国内外の叡知を結集させる仕組みをお願いしたい。
- ・タイムリーに進めるには規制側との調整も必要。実際のモックアップをやる前の時点で、ある程度、規制の体系ができているところまで準備されないと、せっかくの開発に、やり直しや出待ち等が起こるので、その点ご勘案いただきたい。

○中西委員

- ・当面は4号機の燃料取り出しに全力投球してまいりますが、今日のお話は、中長期のものであり、一貫性を持った国の方針が非常に重要。JAEAへの話も一緒に受けとめさせていただきたい。

○茂木議長

- ・廃炉に向けては、事故等が起これば、それで全く止まってしまうこともあり得るので、しっかり安全を確認しながら、しかし進めるものは早く進めていく。
- ・国際協力の話や、規制側との調整等、早目にできるところという視点も含めて検討すること。
- ・6月中を目処に、改訂版のロードマップを決定すること。その前に素案を取りまとめ、事前に福島県や地元自治体、また有識者の皆様にご提示して、ご意見を伺うという作業日程を進めること。
- ・研究拠点の施設の整備は加速することが重要であり、これを世界に開かれたものにする、世界の叡知を集めたものにしていくという視点から、設立の準備を進めていくこと。

以上。